

ドイツを語るパトリック

Vol.2

ドイツのサマー



風が強く吹き、目を閉じると海のような音が聞こえるが、海ではなく、音を立てているのは栗の木のこずえと葉で鳴いている風である。最高気温は20度以下。5月に数日間暑くなって30度を越えたのに、7月に入ってから30度を越えた日が一度もなかった。

地方にもよるが、上記はドイツの一般的な夏の日だろう。もちろんバカンスが長いドイツ人のほとんどは夏の間旅行で暑い地中海の国などに行ったことがある。それに温暖化のせいでドイツでも5年に1回ぐらいとても暑い夏になる。つまり、日本の暑い夏のような夏の経験をドイツ人も皆もっている。それでも、気温が20度以上にならなくても、せっかくの夏だからと屋外プールに行ったり、夏の気分で行き出したり、買い物したり、日中、夏のために買っておいた半ズボンを着たりする人もいる。暑くないのに、ドイツ人の夏気分はどこから生まれてくるのだろうか。

日本海側の冬のようにドイツの冬にも太陽があまり出なく、地方にもよるが、長い冬の間は曇っている雨や雪の日が非常に多い。そのため、少しでも暖かくなって太陽が出ると、日本では考えられないが、街中の公園などで日光浴を楽しむ人がたくさん見られる。寒くても太陽が出れば、3月の下旬からは街中の多くのレストランやカフェなどが市町村のスペースを借り、商店街の路上などにテーブルと椅子を置く。さらに朝の明るさを夜に利用した方が経済的という理由で1980年から再び採用されたサマータイムのため、3月の下旬に時計が1時間早送りされるので、日の入りが急に遅くなり、一気に日が伸び、多くのドイツ人が夏モードに入るだろう。

天気がよければ、4月頃からは住宅街を歩き回るといつでもバーベキューのにおいがする。それは庭で友達と近所の人などと連日的に沈みゆく夕日を見ながらバーベキューをし、サマータイムの長い一日を楽しむ人が急に多くなるからである。

夏の夜は場所によって10時まで明るいところもあり、空はゆっくり紺色のたそがれに移り変わり、完全に暗くなるまでにはさらに1時間以上かかる。そのため、夜遅くまで街中、外で食事する人が一気に増え、夏には、レストランの屋内で食事する人はほとんどいない。外に座り、ゆっくりビールを飲んだり、食事したり、洛陽の夕日に包まれながら、人間観察をする人も多い。わざと椅子を全部道路に向けておくカフェもある。逆に見られる側には夏のために買った服を着て、わざとレストランの前を通り、注目を浴びたいという人もたくさんいるだろう。

もちろん、ほかにも夏の間だけ楽しめることがたくさんある。でも、余暇にどんなことをしても、日が長ければ長いほど好きなことを長く楽しめるので、サマータイムで時計が1時間早送りされる時点でドイツ人には夏の気分が湧いてくるだろう。

日本でも夏の間、ところによっては朝4時前に明るくなる。経済的な理由や犯罪防止などを別としても、明るいうちに余暇の拡大のため、日を伸ばし、サマータイムを再び採用してみてもはどうだろう。

下野市国際交流協会主催「姉妹都市交流団派遣」に参加した方からの報告です

「ドイツ姉妹都市交流団に参加して」

石橋在住 鈴井祐孝

4月23日から5月1日にかけて南ドイツの姉妹都市デーッツヘルツァール市を8人の団員で訪ねました。一行は同市の5家族の家庭に宿泊しながら、30数年前交流を取りまとめたミューツエ村長の墓参りと先方の協会や市長との交流会食会、静かで美しい里山のトレッキングで山中のヒュッテでのバーベキューを楽しんで来ました。

交流協会のご家族は皆とびきり朗らかで親切でありました。そして市の入り口のバス道路脇の手入れの行き届いた小公園に友好都市を著した木製の標識やモニュメント、緑濃い池の端に寄贈した石造の五重の塔などが大切に扱われて友好の記憶をとどめようとしている事を見て心から感謝した事です。

旅の後半は美しいライン河経由でケルン大聖堂まで足を伸ばし、ドイツの春とビール、ワインを満喫してまいりました。



国際交流員 パトリックさんの

「びっくり箱」 第2回

じゃが芋スープの基本

～近代風・伝統風・地中海風・アメリカ風～

- 講師 パトリック・ルムラー
- 日時 7月26日(日)
午前11時～午後1時
- 場所 きらら館
- 参加費 700円 (10歳以下は半額)
- 定員 16人
- 募集期間 7月13日(月)～24日(金)
- 申し込み・問い合わせ

生活安全課 ☎40-5555

Mail : 50141@city.shimotsuke.lg.jp